

## MS & ADホールディングス 電話会議（2023年2月14日開催） 2022年度第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

2023年2月14日に実施した決算説明電話会議の質疑応答（要旨）を以下のとおりまとめました。  
なお、社名表示は以下の略称を使用しております。

MS：三井住友海上火災保険株式会社

AD：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

MSA生命：三井住友海上あいおい生命保険株式会社

MSP生命：三井住友海上プライマリー生命保険株式会社

MS Amlin：AUL、AAG、AISE、ACSを主とする各事業の合計

[AUL(MS Amlin Underwriting Limited)、AAG(MS Amlin AG)、

AISE(MS Amlin Insurance SE)、ACS(MS Amlin Corporate Services Limited)]

Q1： 第3四半期は海外事業ではハリケーンの影響、国内生保では金利上昇の影響があったとのことですが、今期業績の進捗状況について教えてください。

A1： グループ修正利益は、第3四半期時点では概ね計画どおりで、会社計画を若干上回って進捗しています。期末に向けて降雪ロスや大口事故、金融マーケット変動などの要素がありますが、全体としては、業績予想は達成可能とみています。

事業領域別には、国内損保は保険引受利益、資産運用損益のいずれも会社計画を上回って進捗しています。国内生保は、MSA生命はほぼ計画どおりの進捗です。MSP生命は、第3四半期末時点では計画対比で円高となっていることから責任準備金負担が増加してマイナス要因に、また金利上昇もマイナス要因になっています。MSP生命の期末業績はマーケット変動の影響を受けますが、足元では海外金利が落ち着いてきていることやコア利益の積上げもありますので、現時点では通期計画の150億円も見通せると考えています。海外子会社は第3四半期時点では進捗が低く見えますが、次の二つの要素から通期計画を達成できると考えています。一つは、MS Amlinについては第4四半期は保険引受の改善、資産運用の回復が見込まれます。もう一つは、台湾現法であるMSIG明台でコロナ保険のロスがあったことが進捗を悪くしていましたが、リスク削減目的で進めてきた所有不動産の売却や、自動車を中心とする保険引受収支の改善およびコスト削減などで概ねカバーできると考えています。

Q2： 第3四半期までの決算を踏まえ、次年度の業績について教えてください。

A2： 次年度はグループ修正利益ベースで4,000億円を目標としていますが、ここに向かって実現を図っていきたいと考えています。特にMS Amlinはしっかりと引受利益を出すことができるようになってきています。今年度はロシア・ウクライナの影響やハリケーン・イアンの影響などがありましたが、それを加味しても保険引受利益を計上することができるまで回復していることを、通期では確認いただける見込みであり、今年度の特殊要因が抜け

れば次年度は利益が出てくるステージにあると考えています。国内損保事業については、現在、再保険カバーの4月の更改に向けて交渉中ですが、スキームなども工夫し、再保険料の上昇を抑えるようにしていきたいと考えています。また、政策株式の売却を加速し、その売却益も含め、4,000億円の達成を目指していきたいと考えています。

Q3 : MS Amlin のロシア・ウクライナ関連ロスの状況について教えてください。

A3 : ロシア・ウクライナ関連ロスは、97百万ポンドから101百万ポンドに増加したように見えますが、これは為替の影響であり実質は変わっていません。特にAULが受けているポリティカル関連の契約は米ドル建てのものが多く、ドル/ポンドの為替影響で上期末より上ぶれています。事故通知は数十件に増えていますが、具体的な請求には至っているものは少なく、ほとんどが見積り（IBNR）として積みたてているという状況に変化はありません。

Q4 : MS Amlin のインカードロスの進捗率が高いですが、第4四半期に向けた見通しを教えてください。

A4 : MS Amlin の保険引受に関してはまだ確定しておらず精査中ですが、一般ロスは概ね良好に推移しています。自然災害についても20百万ドル超の大口ロスは第4四半期では発生していませんので、通期予想は十分に達成可能と考えています。

Q5 : MS Amlin の再保険料率の引上げは、計画比でどのような状況でしょうか。

A5 : 1月のレートアップは、計画を上回る料率アップを達成できています。マーケットではロス回収がない契約も大きくレートアップしており、自然災害リスクについては北米で約3割から6割、欧州で2割から4割のレートアップができています。一方、リトロのカバーもハード化していますので、MS Amlin では自然災害リスクのエクスポージャーは抑えながら、市場のレートアップに沿った料率の引上げを実現し、利益を上げていく方針です。

Q6 : MS Amlin は、今年度の保険引受利益11百万ポンドが達成可能とのことですが、ロシア・ウクライナ関連除きの一般リスク損害率について教えてください。

A6 : EI 損害率のうち、第3四半期末時点の一般リスク損害率は、ロシア・ウクライナ関連ロスを除いて56.8%です。通期予想では55%としていましたので、それに対しては若干上回っていますが、安定的な利益が出る水準になってきています。

SQ1 : 自然災害とロシア・ウクライナ関連を除いた56.8%から過年度リザーブも除いた損害率を教えてください。

SA1 : 一般リスク損害率の56.8%を当年度と過年度で分けると、当年度が56.0%、過年度が0.8%です。

Q7 : 4月の再保険更改状況や来期の再保険コストの影響について教えてください。

A7： 今年度も再保険からの回収を見込んでおり、再保険が効果的に機能していると考えています。4月更改に向け、1月の欧州、米州の更改などを見ますと、事故がなかった契約でも2割から6割ぐらいレートアップしており、マーケット全体として、キャパシティが逼迫してきています。4月の再保険カバーの更改状況は、現在、再保会社と交渉中であり詳細は回答できませんが、引き続き、財務健全性の確保と期間損益の安定性を考えたカバーの手配を行う方針です。リスク対比の収益性も勘案しながら、引受条件の変更なども含めて、RORで一番効率的なものを手配していければと考えています。キャパシティの確保が厳しいところもありますので、今年度と全く同じサイズの再保険カバーは難しいかもしれませんが、条件なども工夫をしながら、また長年の再保険会社との関係性も活かしながら、交渉を進めていきます。

SQ1： 火災保険の出再保険料を1,700億円程度と推計していますが、この2割～6割が上昇するわけではないということで良いのでしょうか。

SA1： 大きなインパクトにならないようにいろいろ工夫していきたいと考えています。

Q8： 自動車保険のロス、会社予想比でどのような状況になっているかを教えてください。また来期以降はどのように見込まれているのでしょうか。

A8： MS/ADともに国内自動車は計画を若干下回っている状況です。ADは海外子会社からの受再を含むので少し動きが異なりますが、全体としては第3四半期時点では概ね計画どおりです。来期については、交通量の回復や車両・対物の保険金単価の足元の状況を踏まえて、見通しを立てていくこととなります。

Q9： 火災保険は大口ロスがあったため自然災害を除いても悪化しているようですが、通期でも厳しい状況でしょうか。

A9： ご理解のとおり厳しい状況ですが、計画達成に向けて取組んでいきたいと考えています。特にADは大口事故で大きなものがあったことが損害率に影響しています。

Q10： MSP生命の金利・為替影響は、第2四半期のマイナス312億円から第3四半期はマイナス740億円に大きく拡大しています。一方、会計損益はそこまでの影響が出ていませんが、これは何で相殺しているかを教えてください

A10： 資料19ページに金利・為替影響を記載していますが、これが経常利益の内りになります。これを除いた部分が金利・為替変動影響を除いたフローから生じているコアな利益になります。MSP生命の商品には定額商品と変額商品があって現在は定額商品が主体ですが、その定額商品のコアな利益である利ざやが外貨建てベースの収入増に加えて為替影響もあって好調です。

SQ1： コアの業績は相当強いということになりますが、利ざやの部分は一過性ではなく、

来期以降も残る、つまり本業が強くなっているとみてよいでしょうか。

SA1： 利ざやが主体ですが、今年度も会社がターゲットヒットとよんでいる運用成績が契約者の設定した目標水準に達した契約の払戻の際に生じる利益のようなものも含まれていますので、差額がすべて利ざやということではありません。

Q11： 第3四半期までの決算を踏まえた、今年度の株主還元について教えてください。

A11： 中間期から大きな変更はありません。第4四半期を見通すと、比較的着実に計画を達成していけるとみており、その辺りも踏まえた株主還元を実施していければと思っています。今年度は既に配当だけでグループ修正利益の5割を超えている状況ですが、機動的な自社株買いなども含めた追加的還元を検討していければと考えています。

Q12： トルコで発生した地震の影響に関して、日系企業のエクスポージャーやMS Amlinの再保険への影響について教えてください。また、仮に影響が大きくなる場合には、22年度の業績に追い込むことができるのでしょうか。

A12： 日系企業については、現時点では特に大きな損害は見込まれていません。MS Amlinの再保険ビジネスについても、エクスポージャーは限定的とみています。ただし、現地はまだ保険金請求ができる状況ではなく、一定の影響を受ける可能性はあります。追い込み計上するような規模にはならない見込みです。

SQ1： 現在の見立てでは3桁億円にはならないということでしょうか。

SA1： 3桁億円にはならず、最大でも数十億円程度の水準とみています。

以上